2022年度活動概要　　東アジア英語教育研究会

東アジア英語教育研究会では、2020 年 10 月から Zoom を使用したオンライン研究会を開催しており、2022 年度も基本的にその形態を引き継ぐ形となった。ただし、11 月と 3 月は、西南学院大学で対面での開催が可能となった。2022 年度の研究会は年間を通して 7 回開催されたが、嬉しいことに発表者と参加者はこれまでに劣らず東北・関東・関西・中国・四国支部からもあった。2022 年度の特別行事としては、2021 年度に続き、7 月に 2 つの SIG 合同の特別研究会を実施したことが挙げられる。この合同研究会は、言語政策研究会副代表であり東アジア英語教育研究会事務局を担当しておられる鹿児島大学の原隆幸先生のご尽力により実現したものである。プログラムの内容としては、話題提供 1（言語政策 SIG）として、須永恵美子先生（東京大学）と野沢恵美子先生（中央大学）による「英語教育プログラムと国語教育の均衡―南アジアの多言語構造を記録する」、話題提供 2（言語政策 SIG）として、蒲原順子先生（福岡大学）、祁答院惠古先生（法政大学）、高野のぞみ先生（青山学院大学）による「小学校英語教育における『指導者』の実情と課題」、両 SIG の代表者（杉野俊子代表・石井和仁代表）からの挨拶、話題提供 3（東アジア英語教育 SIG）として、　福永淳先生（九州工業大学）による「英語教育政策研究：高校の現場から」、話題提供 4（東アジア英語教育 SIG）として、原隆幸先生（鹿児島大学）「外国語教育における異文化間能力育成の枠組みを考える」についてご発表いただいた。その後、Breakout room session を用いて話題提供 1～4 に分かれて意見交換を行った。

東アジア英語教育研究会の年間の参加者数は、他支部からの参加者を含めて 200 名程度を数えるが、その研究領域は初期の韓国・中国・台湾の東アジア英語教育から徐々に広がりを見せ、現在では広く英語教育一般を受け入れている。また、研究発表者も大学での教育関係者だけでなく、多くの大学院生や教育関連企業からも参加が認められ、柔軟で開かれた研究会となっている。